

平成23年度 松本大学大学院健康科学研究科設置に係る 設置計画履行状況の開示について

平成23年度松本大学大学院<健康科学研究科>を開設しましたが、その設置計画に対する平成23年度の履行状況についてここに開示します。

1. 調査対象大学等の概要について

- ・菴谷利夫学長が2月28日交通事故により急逝されたため、住吉廣行副学長が3月2日より学長代行に就任した。
- ・健康科学研究科 健康科学専攻(修士課程)
修業年限2年 入学定員6人 収容定員12人
- ・基礎となる学部等
人間健康学部 健康栄養学科、スポーツ健康学科
- ・調査対象研究科等の入学者の状況
志願者数 5人 受験者数 5人 入学者数 3人
- ・調査対象学部等の退学者等の状況
平成23年度 0人

2. 授業科目の概要について

申請時点と変更なし

3. 未開講科目・廃止科目について

履修者がいなかったため、10科目未開講

4. 施設・設備の整備状況、経費について

申請時点と変更なし

5. 教員組織の状況について

申請時点と変更なし

6. 留意事項に対する履行状況

認可時の留意事項 「設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう務めること。」

履行状況 「高齢化社会が進む現状にあつて、栄養科学とスポーツ科学を基盤とした[健康づくり]という視点から研究指導を進め、教育・研究内容を常に点検評価をし、社会貢献が十分に果たせるように更にその水準を高めていく」

7. その他全般事項

①設置計画変更等

申請時と変更なし

②教員の資質の維持向上の方策

FDIについては従来人間健康学部で実施してきた体制に則り、今後も進めていく。

③自己点検・評価に関する事項

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

[学生募集に関して]

本研究科の開設は、2010年10月に認可された。その後、大学院生募集の広報活動を始めた。大学を卒業する学生に対しては、松本大学以外への周知がなかなか行き渡らず、しかも時期も遅いこともあつて、受験生の広がりには欠けた。松本大学卒業予定者から5名の合格者を出したが、その後家庭の事情で就職に変更したり、他の公立大学の大学院への進学へと変更したりということで、今年度に関しては3名の入学に止まった。入学式は大学、短大部と合同で2011年4月3日に行われた。

一方社会人に関しては、松本大学に大学院が設置されることを確認してから試験への本格的準備ということにならざるを得ないのであろうが、その意味では本務先との折衝など時間的余裕が無かつたということで、今年度は残念ながら受験がなかった。しかし次年度に関しては既に受験の意思を示して、人生プランを立てながら本学に見学を訪れたり、入試要項を求めると言った動きが複数見られている。

[研究科委員会の定期的開催について]

本研究科の意思決定機関である研究科委員会は4月(通算第5回)から、原則的に月一度の頻度で定期的に行う予定で、その方向で進んでいる。既定方針に従って教務上の課題は遂行されているが、当面特に重視しているのが、次年度に向けての院生募集である。入学者選抜試験の時期を9月と1月の2回と決定し、出題分野・内容とそのレベルなど詳細を詰める段階にきている。

[カリキュラムなど研究・教育活動について]

3名の入学者に止まったため、履修者が存在しなかったのは、1年次前期開講16科目中6科目、後期開講13科目中4科目となっている。どの講義も超少数教育となっており、密度の濃い講義が展開されている。大学院生の控え室・研究室には、机、コピー機、PCなどが完備しており、学生とは違った図書館利用に関する優遇制度も検討済みである。控え室・研究室にはほぼ毎日院生が詰めており、時には大学生に対するTA(任用規程は作成済み)の役割を果たしている。特別研究は3名それぞれが異なった教員を選択している。後期からの開講であるが、既に担当教員との連携は始まりつつある。

[研究生制度導入の検討]

外部からの問い合わせも多く、本学においても研究生制度を敷いたときにどういう問題点があるのか、逆にどういうメリットがあるのか等について検討に入った。導入する場合には、前後期の二期に分けて募集するのが良いという結論に達している。

他に考えられるメリットとしては、院生数が募集人員で12名であり、多くは2年次には特別研究を中心に活動すると予想できるので、授業を履修する院生は10名に満たない可能性が高い。さらに、殆どが選択科目になっているので、一科目当たりの受講者数は更に減ると思われるので、研究生が入ってきても、密度の濃い授業という特色を失うことなく、多様な聴講生がいることにより活力がもたらされる可能性が高いと判断した。